

令和2年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立緑が丘中学校
-----	------------

1 学校教育目標

自ら考え 正しい行動のできる 心豊かな生徒の育成

2 本年度の重点目標

(1) めざす学校像	① 安全で安心して過ごせる学校 ② 思いやりにあふれ、人権への配慮が行き届いた学校 ③ 自主的・意欲的な活動を通して、子どもたちが自己実現できる学校
(2) めざす生徒像	① 知・徳・体の調和がとれ、自立して自らの夢や志の実現に努力する生徒 ② 自分を大切にするとともに、友だちの喜びを自分のことのように喜べる生徒
(3) めざす教師像	① 確かな人権感覚を持ち、子どもたちに寄り添い、伸ばす教師 ② 子どもたちの自己実現を助け、自立した子どもたちを育てる教師

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	①学力向上のためのわかる授業づくり ②補充学習や家庭学習の充実による基礎学力の定着	① 夏季休業の短縮等により総授業時数は確保することができた。 ① わかる授業のアンケート項目は目標に達成しなかった。 ① 少人数授業に対し肯定的回答が多く、効果的に実施できた。 ① 一人一台のタブレットの活用は積極的に進んでいる ② 休校中には家庭学習の新たなスタイルをつくることができた。 ② 夏季休業は短縮されたため、課題精選の検討は持ち越した。	B	① 令和3年度に予定されている学力向上サポート事業の発表に向け、一人一台のタブレットPCの活用をはじめICTの活用に積極的に取り組んでいく。 ② 通常の課題に加え、タブレットPCの持ち帰りを進め、自学自習の習慣をつけさせる。
生徒指導(不登校)	①予防的生徒指導の充実 ②いじめ対策、不登校対策の充実	① いじめアンケート等は計画に沿って実施することができた。 ① コロナ禍において実態に即したきまりの見直しを行うことができた。 ① 生徒理解に係るアンケート結果が伸びず、行動の背景を理解した支援・指導をさらに進める必要がある。 ② いじめ等の早期発見に努め、初期段階での解決を図れた。 ② 新たな不登校の出現を防ぐことができなかった。	B	① 教職員の声かけ等、相談しやすい環境づくりに努め、生徒の背景に目をむけ、情報交換を迅速に行う。 ① 時代に応じるとともに、生徒の判断力を養う学校の決まりの見直しを進める。 ② 気になる言動をキャッチし、情報交換や関係機関との連携をしながら指導方法について共通理解を図る。
特別活動	①生徒の主体的な活動の推進 ②各種行事の活性化	① 体育祭の代替行事では、規模を縮小した中ではあったが、生徒の企画運営への参画を図り、創意工夫された内容とすることができた。 ② 感染症対策のため、体育祭や修学旅行等、多くの行事が中止や規模の縮小となったが、その中で、従来のやり方にとらわれない新しい形を作り出すことができた。	B	① 生徒の意見やアイデアを積極的に取り入れ、学校運営に積極的に参画しようとする意識を高める。 ② コロナ禍での今年度の経験を検証し、来年度からの各種行事の在り方を検討し、試行していく。
道徳教育 人権教育	①道徳教育の充実 ②人権意識の向上	① 評価に関する研修を効果的に実施することができた。 ① タブレットを使った新しい取組試行することができた。 ① 学級により差はあるが通信を通じた家庭との連携ができた。 ② 志染中学校との統合を見据え、毎年行っている3年生対象の人権講演会は3学年全てで行った。また、職員対象の講演会も緑が丘中学校区に志染小学校を加え実施することができた。	B	① 評価のあり方について継続して研究を進めるとともに、授業時間数の確保に努める。また、学級通信等を通じて保護者との連携を進める。 ② ICTの活用を道徳の授業にも取り入れる。 ② 志染中学校との統合を受け、継続的に講演会等の学びの機会を確保していく。
特別支援教育	①支援を要する生徒の理解と支援の充実 ②交流を通じた学びの充実	① 日々の気づきを共有し、個に応じた支援を行うことができた。 ① 保護者や関係機関と連携を効果的に行うことができた。 ① 特別支援教育指導補助員を有効に活用することができた。 ② 幼小中特が連携した情報共有を図ることができた。 ② 充実した特別支援学校や小学校との交流が行えた。	B	① すべての生徒に対して、特別支援教育の視点を生かしたかわり方をさらに充実させていく。また、生徒観察を通して、どんなことに困ったり支援を必要としているのかを早期に発見し、教職員ができる具体的な支援について共通理解を図り、必要な支援を行う。
家庭・地域との 連携	①家庭との連携強化 ②学校からの情報発信や学校公開による開かれた学校づくり	① オープンスクール等を実施することはできなかったが、通常時の連絡等をより密にし、連携をとることができた。 ① コロナ禍での取組について理解、協力をいただくことができた。 ② 学校通信の発行と、メリハリあるHPでの発信ができた。 ② 公民館行事や地域の防災訓練は中止され活動の機会が減った。	B	① 志染中学校との統合後の、家庭訪問も含め、家庭との連携の在り方について検討を行う。 ② ICTの活用等を積極的にHPを通して発信していく。 ② 今後の感染状況を踏まえ、保護者の学校行事や、生徒の地域活動への参加について検討する。
教職員の育成	①研究授業・研修会の充実 ②生徒理解に努める教職員の育成	① 研究授業や各種研修会は最小限となった。 ① 教員が授業を参観しあう週間を持ち、良さを認める交流ができた。 ② 生徒指導部会、不登校対策委員会を定期的に行った。 ② 業間等も生徒を見守る指導体制が浸透しつつある。 ② 個々の生徒の良さを認める取組もいくつか実践できた。	B	① 内容によっては若い教員がリーダーシップをもって研修会を進める等、人材の育成に努める。 ① 教員の相互刺激ができる仕組みを工夫するとともに、望ましい実践の共有化を図る。 ② 絶えず自己の改善を図ろうとする意識を教員の中に育成していく。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

○生徒、保護者、教職員のアンケート回収率が95%以上であり、学校関係者の意見が反映されている。 ○評価の観点、項目、取組状況が学校教育活動の根幹になるもので構成されており、今後の学校運営に活かされる。 ○チェックリストを基にして評価内容を細分化し、具体的な取組がわかるものになっている。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
評価Bは妥当であるが、Aに近いBと考えられる。コロナ禍で登校日数は減ったが、長期休業の短縮などにより授業時間数は確保できている。保護者の評価がやや低いことは期待感やコロナ禍による不安感の表れと思われる。学校側はオンライン授業やタブレットPCの利用など、これからの時代で求められる学習形態を積極的に取り入れようとする姿勢が見られる。学習活動は学校生活の中心になるものであり、今後も丁寧な指導をお願いしたい。
評価Bは妥当である。生徒理解の評価で差が見られるが、生徒の内面理解の難しさがあり、数値目標だけで判断できる項目ではない。生徒が抱えている問題は個々に違い、対応法も異なる。生徒指導に対する校内組織が充実し、連携や情報交換ができていたという長所を活かし、来年度も寄り添いやフォローを継続していただきたい。
評価Bは厳しく、Aが妥当である。コロナ禍の中、活動場所や内容が限られていたが、生徒の約80%が満足している結果が出ている。生徒会役員や教職員の創意工夫が見られたスポーツフェスティバルや修学旅行の代替行事なども生徒の思い出として印象深いものとなった。また、志染中学校との統合に向けた交流を計画的に進めている点も評価できる。
評価Bは妥当であるが、限りなくAに近いと考えられる。目標値が高く設定されているため自己評価が低くなっているが、生徒と教職員の満足度は高い。道徳・人権教育は中学生にも必要なものであり、日々の授業はもちろん、人権強化週間を利用した「当たり前のことを当たり前に行うように」という活動や講師を招聘した人権研修会を全学年で実施したことは生徒の人権意識の向上につながっている。
評価Bは妥当である。2名の補助員が配置され、個々の生徒に合わせた支援が行われている。また、近隣の特別支援学校との交流を可能な限り行い、学びの充実につながっている。保護者との連携も十分に行われており、支援体制は構築されていると思われる。しかし、勉強が苦手な生徒や配慮が必要な生徒が増加している現状があり、このような生徒に対する指導体制構築が次年度以降の課題として考えられる。
評価Bは厳しく、Aが妥当である。保護者の多数が学校の取組を評価していると共に、教職員は家庭との連絡を密にとっていることがアンケート結果からよくわかる。また、学校HPが充実していることや学校・学級通信の定期的な発行により、情報発信は十分にできている。このことは家庭や地域に学校教育活動を知らせるだけでなく、「開かれた学校づくり」に取り組んでいる姿勢を示すものである。
評価Bは妥当である。上記にも記したが、生徒は心身共に成長している時期であり、教職員に対する要求レベルも高くなっている。ベテラン教員の指導スキルを若手教員に伝える声掛けや研修を継続し、生徒の内面理解につなげていただきたい。また、教職員は豊かな発想を持っており、ただ教科・生徒指導をするだけでなく、生徒の良さを発見し、共有する取組を継続的に行っている。それらが生徒の自己肯定感の向上につながっていると考えられる。